

1. 調査報告概要表

作成日 平成 20年 3月15日

【評価実施概要】

事業所番号	1091100014
法人名	有限会社 竹の里
事業所名	グループホーム 竹の里
所在地	群馬県安中市松井田町五料2098-1 (電 話) 027-380-4353
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5
訪問調査日	平成20年2月29日

【情報提供票より】(20 年 1月 21日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 18 年 10 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	11 人 常勤 4 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 4.8 人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	階建ての 階 ~ 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	光熱費 12,000円	
敷 金	有(円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要 (1 月 21 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1		名	要介護2	3	名
要介護3	4	名	要介護4	1	名
要介護5	1	名	要支援2		名
年齢	平均 86 歳	最低	74 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	松井田病院 ・ 須藤歯科医院 ・ 吉井歯科診療所
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者・職員一同は連携を密にしながら、ケアの質の向上に向けて前向きに取り組んでいる。職員は利用者同士の関係が円滑になるよう支援しており、利用者は共に助け合い、支えあって暮らしている。居間の壁には職員と利用者で制作した美しいパッチワークの作品が飾られている。緑の多い静かな環境に立地しており、広い庭では花づくり、隣接する菜園では野菜づくりをしている。清潔に整えられた室内は開放感があり、利用者職員が共に過ごし、ゆったりと生活しているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回の外部評価が初回であり該当なし
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義や目的を理解し、今回の自己評価は職員全員で取り組んだ。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は定期的開催されている。ホームからの状況報告等に加えて、メンバーで意見交換や討議を行っている。会議の中で、ホームの行事に地域のお年寄りを招待してはどうかというメンバーからの意見がでた。会議での要望を受け、老人会の人達に毎月ホームで開催されている映画鑑賞会への参加を呼びかけた。映画鑑賞会には多くの人達が訪れ、利用者・職員との交流を図っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族等の来訪時には話しやすい雰囲気づくりに留意し、意見等よく聞くように努めている。運営推進会議に出席した家族からも意見や要望等を聞くようにしている。意見箱を設置しており、意見や苦情等は運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の人達に、散歩やゴミ出し時に挨拶を交わしたり、野菜等を届けてもらっている。毎月ホームで映画鑑賞会を開催しており、地域の老人会の人達が多数来訪し利用者との交流を図っている。中学生の体験学習の受け入れをしている。小学校の運動会に参加させてもらえるよう働きかけている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	サービスのあり方を端的に示した事業所独自の理念を掲げているが、地域との関係性を重視した地域密着型サービスとしての理念をつくりあげていない。	○	これまでの理念を見直し、“地域の中でその人らしく生活することを支える”地域密着型サービスの役割を職員全員で考えながら、事業所独自の理念をつくりあげていってほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有し、会議等で意識しながら話し合い、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の人達とは、散歩やゴミ出しの時等に挨拶や話をしたり、野菜等も届けてもらっている。毎月映画鑑賞会を開催しており、地域の老人会の人達が多数来訪され一緒に楽しんでいる。中学生の体験学習の受け入れをしている。小学校の運動会に参加させてもらえるよう働きかけている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、会議の中で評価項目の内容を確認しながら話し合い、職員全員で自己評価に取り組んだ。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的で開催しており、ホームから利用者の様子やサービスの実施報告等を行い、出席者からの意見や要望を受け話し合いを行っている。そこでの意見等はサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当窓口に出かけ相談したり、地域包括支援センターの担当者とも利用者の相談や意見交換をしている。市の介護相談員の受け入れを行っている。毎月、市の会議に出席し意見交換等している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の来訪時には、健康状態や暮らしぶりを伝えており、隔月にホーム便りと一緒に暮らしぶり、サービス提供の報告、行事の写真、本人の手紙等を送付している。家族等と金銭管理の取り決めをしており、月1回その出納を明示している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の来訪時には話しやすい雰囲気づくりに留意している。運営推進会議には、家族等に出席してもらい意見等を聞くように努めている。意見箱も設置しており、意見、苦情等は運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は最小限に抑えるよう努めている。職員が代わる場合は、利用者、家族に説明し、ホーム便りに記載している。開設当時の職員が、基本的な対応の仕方等を指導しながら共に支援にあたり、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は認知症の理解、口腔ケア、介護技術スキルアップ、アートセラピーの研修等を交代で受講している。研修記録を作成し、会議等で報告している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回、市の調整会議に出席し地域の同業者と交流している。地域の複数の同業者と相談や情報交換等しながら交流している。4月から地域密着型サービス連絡協議会に入会する予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族からよく話を聴き、状況等を確認している。見学しながら雰囲気を見てもらい、本格的な利用に移っていけるよう支援している。入居後も家族に電話したり、帰宅や外出等、利用者の希望に応じながら徐々に環境に馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、日常の生活場面で昔の話や歌を聞かせてもらったり、手遊びや編物、縫い物等教わることも多い。共に過ごし支えあう関係づくりに留意している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、本人との会話等の中から思いや希望を汲み取るようにしており、家族等からも意見等を聞くようにしている。その情報を職員間で共有しながら日々のケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には日頃のかかわりの中で思いや意見を聞き、介護計画に反映させるようにしている。毎月モニタリングを行い、カンファレンスで職員が話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映させた利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月に1度と状態の変化に応じて実施している。職員間で話し合い、本人・家族等に説明し確認しながら現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族等の希望や状況に応じて、通院、送迎、買い物等必要な支援は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、本人・家族等の意向を確認し、希望するかかりつけ医で適切な医療を受けられるように支援している。受診や通院は本人や家族等の希望に応じて対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、対応方針の統一と話し合いがなされていない。	○	重度化や終末期に向けた対応方針を定め、それを文章化し、できるだけ早期から本人や家族・かかりつけ医等のケア関係者と話し合いをくり返し、その時々々の家族等の意向を確認しながら、関係者全体で対応方針の統一を図っていかれるとよいのではないかと。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の尊厳を大切に、言葉かけや対応に配慮しながらやさしくさりげない介助をしている。記録等の個人情報の取り扱いに関しては、秘密保持の徹底を図るよう努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態やその時の気持ちを大切にしながら、散歩、買物、ドライブ、畑仕事、パッチワーク、カラオケ、花の手入れ、洋服の選択等、できるだけ利用者の希望にそって支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が同じテーブルを囲み、楽しく食事できるよう支援している。皮むき、お盆拭き、下膳等職員と一緒にやっている。食材の購入は職員と利用者が一緒に出かけている。好きな飲み物の選択や出前で好みの注文をしてもらうこともある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回、午後に入浴支援をしている。入浴を拒む利用者には清拭、足浴をして爽快感を味わってもらい入浴するよう繋げている。菖蒲湯やゆず湯を楽しむこともある。	○	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの習慣や好みをよく聞いて、相談しながら個別に合った入浴の支援をしてほしい。
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カルタの読み手、レクリエーションの進行係、ゴミ出し、洗濯物たたみ、裁縫、モップかけ、文書整理、畑仕事、季節の花見、日帰り旅行、映画会、誕生会、お茶会等で役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買物、ドライブ、季節の花見、日帰り旅行等、利用者が戸外に出て楽しめるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関扉は施錠している。	○	自分の行動をコントロールされる理由や規則を理解することが難しい利用者にとって、鍵をかけられ、自由に外に出られないことによる心理的な抑圧感や不安は大きい。職員の連携で、出ていく気配を見落とさない見守りの方法を徹底し、一人ひとりのその日の気分や状態像を把握しながら、鍵をかけずに自由な暮らしを支援してほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回利用者と一緒に避難訓練、消火訓練を実施している。近所の家に緊急時の協力依頼をしている。マニュアルや緊急時連絡網を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、栄養バランス、水分補給量等記録し、職員は情報を共有しながら支援している。利用者の状態に応じて、ミキサー食、刻み食、おかゆにする等の配慮をしながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先に花のプランターを設置し季節感を演出している。ホールの壁には、行事の写真や利用者と職員が製作したパッチワークの作品が飾られている。談話室にはソファ等が設置されている。テラスでは日向ぼっこやお茶会をしている。花壇に花の種をまき、菜園では野菜づくりをしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には整理タンス、テレビ、縫いぐるみ、家族の写真、テーブル、寝具、ポータブルトイレ、杖、愛読書、肩たたき棒等が持ち込まれており、本人が安心して過ごせる場所となっているように見受けられた。		